

小中一貫教育目標	「自ら学び 考え 自立した行動ができる『きさ』の子ども」の育成	経営理念	○ミッション なりたい自分の夢や目標の実現のために、八幡のひと・こと・ものとの対話を通じた多様な体験活動を通して、ふるさと八幡への郷土愛を育むとともに、変化に対応して生きる力を身に付けた人材の育成に貢献する。	A 適切である B 概ね適切である C あまり適切でない D 全く適切でない (N 判定できない)
学校教育目標	やさしく かしこく しなやかな 児童の育成		○ビジョン ・表現する力の育成 ・グローバルマインドの育成 ・小規模・複式校での学びの積極的な発信	

評価計画						自己評価					学校関係者評価		
項目	重点	中期経営目標	短期経営目標	具体的な取組・方法	評価指標	目標値		達成度	評価	分析（達成状況）	評価	記述	
						中間	最終						
確かな学力		確かな学力の定着と主体的・対話的で深い学びの実現	基礎的・基本的な知識・技能の定着	①自己の目標を設定する。自分の弱点（間違えた問題）を自主ノートで復習する。 ②「公正に個別最適化された学び」の導入により、学び直しをさせる（ドリルタイム等）。	・単元テスト学年平均点が目標値を上回る学年の割合（中間） ・三次市学テで全国平均を上回る学年の割合（年度末）	80%	100%		A	A	4教科のクラス平均点がすべて目標値を上回った。		
			「表現力」の育成	①読書朝会・読み聞かせ等を通して、読書習慣を身に付ける。 ②各種作品コンクールに年間で一人6本以上取り組む（習字・俳句・作文・写生・科学研究など）。	児童アンケートによる達成率	80%	ほぼ100%		A	A			
豊かな心		主体的に表現しようとする児童生徒の育成	自己有用感の向上	①オペレッタ、八幡子ども太鼓、やわた寄席の努力ぶりを全校の前でしっかり評価する。(児童同士・教職員) ②「福祉・ふるさと教育」に取り組み、地域に学び地域に返していく活動を充実させる。 ③行事や委員会などで一人一人が活躍する場を設定し、自己肯定感を高める取り組みを充実させる。	児童アンケート総項目の平均値	85%	①100% ②100% ③88%		A	A	①運動会とふれあいの夕べで発表し、高い評価を得た。 ②アスパラガスの学習、サツマイモの栽培、座禅体験、アユの放流・調理体験、田植え体験を行った。敬老会にメッセージを送った。 ③アイチェックによるものであるが、自己肯定感の低い2名は全校のリーダー的存在で全校の信頼度も高い。自分に厳しい回答をしているだけであり、特に課題であるとは思われない。		
			規範意識の醸成	①小中連携合同研修で道徳の授業を公開し、道徳と行事をタイアップさせる。 ②ステージ発問の導入を意識し、道徳の授業を充実させる。 ③「あいさつ・返事・はきものそろえ」を奨励し、その成果を評価する。地域・来校者の方にも進んで気持ちの良いあいさつをする。	道徳アンケートで肯定的に回答する児童の割合	90%	①取組中 ②90% ③100%		A	A	①②小中合同研修会に向けての学習指導案検討・ステージ発問の研修を行った。 ③日頃より、あいさつ・返事・はきものそろえの指導を継続した。		

健やかな体	健康の保持増進と体力の向上	生活習慣の確立	①学期に1回、個人面談を行い、自分の健康課題に気付かせる。 ②テレビ・ゲーム・インターネット利用の実態把握を行い、保護者に啓発する。	・個人面談実施率 ・生活アンケートでの改善した達成率	100% 75%	100% —		A —	A —	個人面談は全員実施することができた。ゲーム時間、食生活など個人の健康課題について考えさせた。ゲームに関する生活アンケートは夏休み後、集計する。		
		体力の向上	①合同体育・全校体育を実施し他学年と切磋琢磨することで体力の向上をめざす。 ②頑張り表や記録証を活用し、自己目標を設定させる。	児童アンケート「自分で進んで体力づくりに取り組んだ」を肯定的に回答する児童の割合	90%	100%		A	A	82%の児童が「できた」、18%の児童が「だいたいできた」の回答であった。1学期に実施した新体力テストの結果は、判定AB率100%、CD率0%であり、昨年度より向上した。		
信頼される学校	地域・保護者から信頼され期待される学校づくり	地域とともにある学校づくり	①毎月2回以上、便りや通信、HP等で子供の様子を具体的に発信する。 ②家庭・地域と一体となった防災教育、ゲームの弊害教育を進める。	保護者アンケート総項目の平均値	90%	92%		A	A	すべての項目で肯定的回答が目標値90%を上回った。全校懇談会でノーメディアデーの取組状況を交流し、保護者の協力を得てさらに進める。		
		働き方改革の推進	①教職員の意識改革を進めるための研修の実施 ②一斉退校日の完全実施	勤務時間外在校時間が月45時間以下の教職員	100%	100%		A	A	4～7月の勤務時間外在校時間が月45時間以下であった教職員の割合は100%である。		

【自己評価】 A：達成度100以上（目標達成） ， B：80≦達成度<100 （ほぼ達成） ， C：60≦達成度<80（もう少し） ， D：達成度60以下（できていない）